

郷土愛をはぐくむ日本史Bの授業実践

—フィールドワークから地域社会の一員としての自覚を促す試み—

千葉県立 ○○○○ 高等学校 ○○ ○○（日本史）

1 はじめに

本校は卒業生総数1万7千人、創立86年目の伝統校である。しかし、近年は選抜倍率が低下し募集定員を満たせない状態が続いている。これに伴い生徒の学習意欲も低くなり、授業の成立も困難な状況も見え始めている。こうしたことから、以下の2つの課題について考えた。

1つ目は、学習意欲の乏しい生徒をどうやって授業へ参加させるのかという課題である。これは本校職員が等しく抱える切実な課題である。「漢字が読めない」「自分の将来が描けない」といった生徒に興味・関心を喚起させる方法を探りたい。併せて、どうしたら生徒とのコミュニケーションを深められるかという課題がある。初対面から教員と距離を置き、落ち着きがなく、時と場に応じた対人関係を構築できない生徒たちと、どう向き合うかという課題である。

2つ目は、地域に大切にされているのにも拘わらず、生徒が地域のことを全く知らないという現実である。学習指導要領に示されている「地域の文化遺産、博物館や資料館などの調査・見学などを取り入れる工夫」「地域社会の歴史と文化」についての授業実践とは、具体的にどのような方策があるのか。また、「伝統や文化を尊重する気持ちや態度」をどのようににはぐくむかという課題を満たすとともに、地域と共にある本校生徒の方向性を際立たせたい。

この2点を踏まえて、生まれ育ったふるさとに受け継がれてきた伝統や文化への関心を高め、地域社会の一員としての自覚を促すような、郷土愛をはぐくむ授業実践を考えたい。

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領からの視点

教育基本法第2条の5には「伝統と文化を尊重し、…我が国と郷土を愛する」とある。学習指導要領では、3 内容の取扱いウの中で「**地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫をすること**」と記されている。さらに内容の取扱いオでは「**地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること**」と明記されている。

見識ある社会人として活躍すべき生徒たちには、我が国や地域を愛する態度をはぐくむとともに、伝統や文化に関する教育の充実が望まれる。それだけに、地理や現代社会をはじめ教科「情報」、家庭などの他教科とも連携して、我が国の伝統や文化を尊ぶ心と態度をはぐくむことが大切である。

こうした内容の取扱いに留意しながら、差し当たって生徒が歴史への興味・関心を持ち、意欲的に取り組んでいく気持ちや雰囲気を作りたい。そして、学習指導要領の目標を実現するための方策としては、地域の文化遺産を教材化しながら、フィールドワーク（以下**FW**と表記する）の実践を伴った計画的・系統的な授業の構築を目指した。以上の理由から、この主題を設定した。

(2) 授業実践の概要

はじめに、身近な地域の史跡や文化遺産を積極的に取り入れた教材化の工夫を端緒に、生徒が自ら**FW**という活動を通して得られる成果を検証する。教師主導の取組から、生徒が主体となって地域のフィールドで活動する実践を目指す。つまり、生徒自らがテーマを設定し、事前学習及び現地での体験や研修を通じて郷土史に親しみ、それらを報告書としてまとめて発表する形態を探る。さらに「わがまち歴史の旅マップ」を作成し、地域の観光振興などにも目を向ける。

こうした一連の活動から、授業への取組や興味・関心を深めるとともに、文化財を大切にしようという気持ちや地域社会の一員としての自覚がはぐくまれることを検証したい。

(3) 本校生徒の現状 授業アンケートより

(平成 22 年 5 月実施 3 年全クラス 128 名)

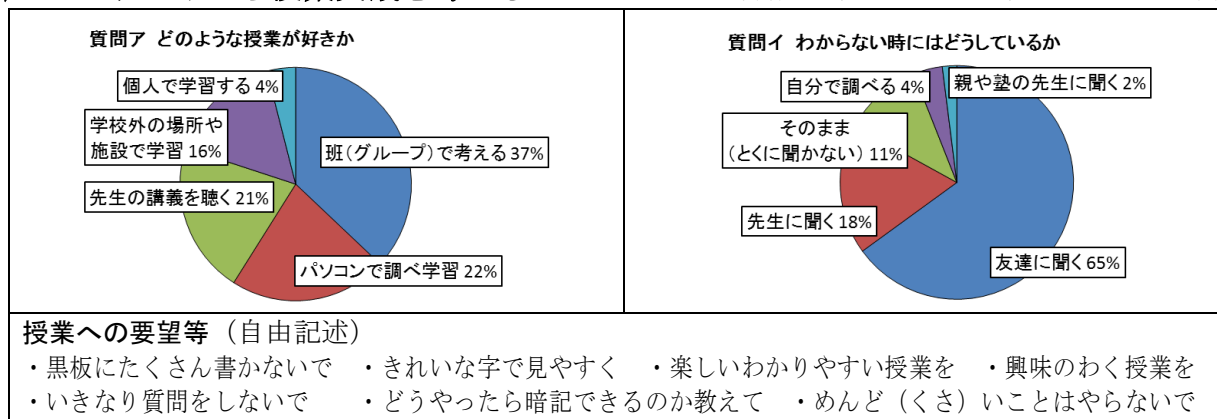
歴史(日本史)は	好き 28%	嫌い 40%	どちらでもない 32%
その理由 好き	戦国時代・幕末が好き 昔のことを知るの楽しい 戦争に関心がある ロマンがある 武将系が好き 父が好きで影響を受けた お寺など癒される		
嫌い	覚えるのが大変 漢字や暗記が苦手 わからない やる意味がない		
家族で歴史の話を	よくする 6%	たまにする 27%	ほとんどしない 67%
歴史の本を	よく読む 5%	たまに読む 17%	ほとんど読まない 78%
歴史の興味分野	政治史 12%	人物史 34%	経済史 0% 文化史 28%
	法制史 1%	郷土史 6%	戦争史 17% その他 2%
お寺や仏像などに	興味がある 12%	少し興味がある 43%	ほとんど興味がない 45%

アンケートから、歴史が好きな生徒は3割弱で、全体として嫌い、もしくは関心がないという傾向にある。家族で歴史の話をしない生徒は約7割、歴史に関する本は8割の生徒が読んでいない厳しい現実がある。興味のある分野としては「文化史」・「郷土史」が合わせて3割を超えており、地域の歴史や文化財を積極的に取り入れた教材づくりや生徒の活動が必要であると考えられる。

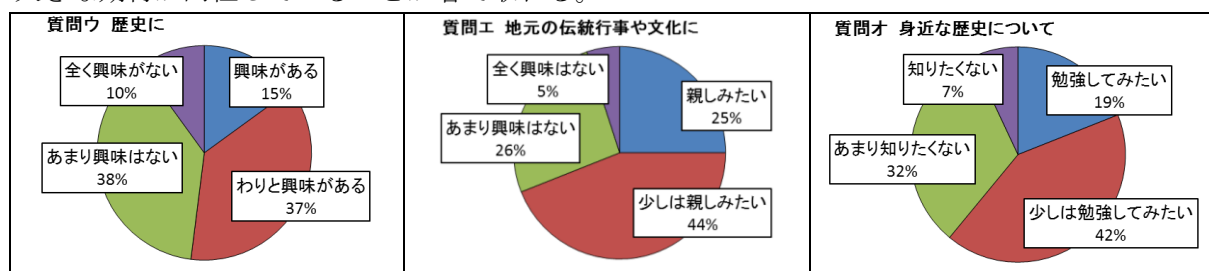
3 研究方法

(1) アンケートから授業実践を考える

(平成 22 年 7 月実施 3 年全クラス 122 名)



質問ア・イから、「班(グループ)学習やパソコンを使つての調べ学習」を望んでいる。「わからない時は友達に相談する」が6割を超えている。授業への要望は、「楽しくわかりやすい授業」「興味のわく授業」という記述が圧倒的に多く、一見無気力に見える本校生徒にも授業に対する大きな期待が内在していることが見て取れる。



質問ウでは、約半数の生徒が郷土の歴史に「興味がある」と答えている。質問エでは、69%もの生徒が親しみたいとしている。これらをふまえて、質問オの「身近な歴史」についても、約60%の生徒がそれなりに勉強してみたいと答えている。いわゆる「郷土」という視点からの地域史学習が、興味・関心を持てる1つの要素である。生徒が望んでいる「班で考える」「パソコンを使つての調べ学習」などに、仲間と実際に現地で見たり聞いたりして、五感を通じて体験するFWと併用することで、歴史に対する認識や授業への取組が変わるという仮説が立てられる。

(2) 授業実践計画

身近な地域の史跡や文化財を積極的かつ効果的に用いて授業を行いながら、生徒が主体的に作業や体験、発表ができるよう構成していく。具体的には次のような3つの授業実践を計画した。

実践概要1 テーマ「身近な寺院と仏像に親しもう」 ※教師主導によるFWの計画・実践

身近な地域の文化財の学習を行う。訪問先（見学先）への打診、ワークシート作成、FWの計画と実践・事後指導を教師主導で行う。この実践は古代から中世までの文化史（仏像彫刻）のまとめとして、実際のフィールドに身を置くという体験的な学習を重視する。

実践概要2 テーマ「郷土史テーマ学習」 ※生徒主体によるFWの計画・実践

生徒自らテーマ設定し、事前学習・計画とFWの実践、報告書作成、発表、自己評価を行う。学習指導要領の内容の取扱い（1）のウ「地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学を取り入れる」並びにオ「地域社会の歴史と文化について扱う」ための具体的な実践として行う。

実践概要3 テーマ「わがまち歴史の旅マップ作成」 ※生徒主体による地域観光マップ作成

地域観光マップをFWに基づき生徒が作成する。小湊鉄道沿線の駅に配布して、地域の観光振興に利用してもらう。教科「情報」との連携をして地図を作成し、文化祭での展示・発表を行う。

(3) 年間学習指導計画への位置づけ 日本史B 市原高校年間指導計画（第3学年／3単位）

学 期	月	学習内容と本研究の実践概要			
1 学期	4 月	原始・古代 中 世	第1章	文化と国家の形成	実践概要1 別項2-4参照
	5 月		第2章	古代国家の確立	
	6 月		第3章	中世社会の成立	
	7 月		第4章	中世社会の展開	
2 学期	9 月	近 世 近代・現代	第5章	統一政権の展開	実践概要2 別項2-7参照
	10月		第6章	幕藩体制の展開	
	11月		第7章	大日本帝国の誕生	実践概要3 別項2-9参照
	12月		第8章	大日本帝国の展開	
3 学期	1 月 2 月		第9章	日本国憲法と現代の世界	

使用教科書『高校日本史B』新訂版 副教材『新詳日本史』資料集

※1年次「地理B」4単位、2年次「世界史A」3単位を必修履修する。3年次に「日本史B」3単位、「現代社会」3単位を必修履修し、「政治・経済」3単位を選択履修できる。

4 授業実践

(1) フィールドワークを実施するにあたって

学校教育法の改正で「義務教育と高等学校との間の系統性を重視した円滑な接続を図る」と記されている。小・中学校でのFW実施状況を調査し、その内容や実施地、生徒の意識を知っておく必要がある。以下に実施結果の一端を示す。

質問1 86%の生徒が市原市内から通学している。

質問2 小学校のほとんどで郷土のFWが実施されていたが、中学校ではほとんど行われていない。

質問3 市内では、多くの小学校で周辺の古墳や寺院散策、国分寺跡への校外学習が行われていた。

質問4 地域の祭礼や伝統行事に多くの生徒が参加していた。神楽への参加者や御輿の担ぎ手などが16名いる。

質問5 関西への修学旅行が大多数で、京都や奈良の有名名刹に参詣している。

小学校社会科では、「調べて考える力」を育てることが重視されている。中学校では地理的分野において系統的な学習だけでなく、身近な地域を「調べる学習」が中心である。小・中学校で培った「調べて考える力」をうまく繋いで発展させるまでに至っておらず、改めて高校も含めた体験的・探究的な学習の重要性が浮き彫りとなっている。

フィールドワーク実施前の事前調査

日本史 市原の郷土史フィールドワーク 事前調査プリント

質問1. あなたが住んでいる市町村は 市原 (市・町) 石巻 (市・町)

< 解答例 > 大宮 (市・町) 船子 (市・町) 市原 (市・町) 加賀 (市・町)

質問2. 郷土史(身近な地域の歴史)で現地調査などの学習をしましたか。

小学校	☒ (した) / ☐ (していない)	中学校	☒ (した) / ☐ (していない)
場所	白鳥神社	場所	
感想	市原市でもっと歴史を学ぶ場所がある。	感想	

質問3. 身近な地域(周辺市町村)の歴史的な事項について、知っていることを箇条書きで書いてみよう。また、そのことのように知りましたか。

< 解答例 > ・距離に前方後円墳があり、小学校の通学でそこに行った。>

・橋の横に古墳があり、古墳で遊ぶ。

・古墳の横に古墳があり、古墳で遊ぶ。

質問4. 地域の伝統行事(祭礼や伝統芸能)にかかわったことがありますか。

< 解答例 > 地域の祭礼の太鼓をたたいている。 かかわったことはないが地域の祭礼には参加する。

・祭礼の太鼓をたたいている。 かかわったことはないが地域の祭礼には参加する。

質問5. これまでに行ったり見たことのある神社仏閣や文化財を書こう。

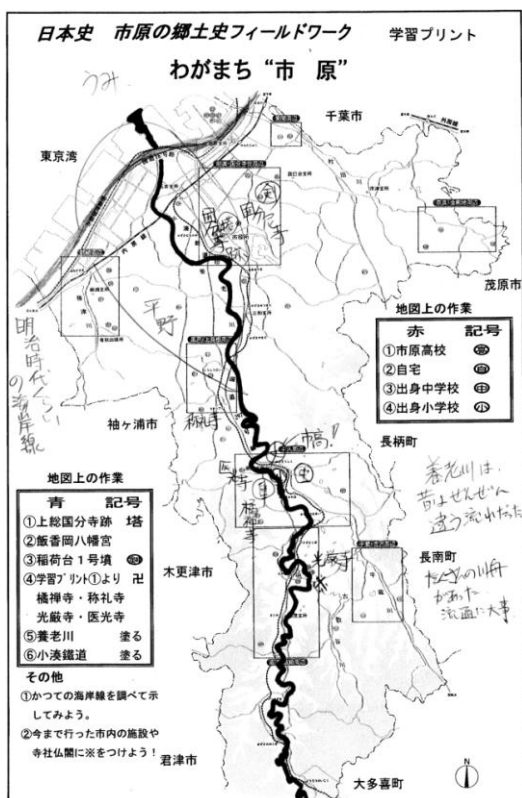
< 解答例 > 大宮神社(市) 一里寺 船子八幡宮(町) 七五三のお参り 清水寺(京) 修学旅行で

市原市 白鳥神社、市原市 白鳥神社、市原市 白鳥神社、市原市 白鳥神社

<生徒がコメントを付記した一例>

(2) 実践報告 1 「身近な寺院と仏像に親しもう」 5時間扱い ア 1・2時間目 事前指導及び事前学習

地域の特徴や歴史を「地図」から考える



授業の導入を市原市の地図から行う。小・中学校でも利用されており、自分たちの地域の様子などを話しはじめる生徒もいる。姉崎周辺や国分寺台などには多数の古墳があることなども生徒から出てくる。

「地図からわかること、読み取れることを何でも自由に。」

S「市原市は南北に長い」「養老川が中央に流れている」

T市原の平野は、養老川が流れを変えながら、土砂などが堆積してできた。昔は今と違うところを流れてたんだ。

S「たくさんの市町村がお隣さんだ」「市原は大きい」

T市原市は千葉県で一番大きい面積だよ。人口は？6番目。

工業製造品出荷額は？なんと1位。市高の就職先を支えているよ（笑）海岸部の工場地帯には多くの卒業生がいる。

S「小湊鉄道が養老川と同じように走っている」

T五井から牛久まで680円！CMのロケによく使われてる。

S「市高は市原市の真ん中」「小湊線はどこまで行くの」…

学習に係る発言をすることの少ない本校の生徒からの意見は大切にしたい。自由に意見を述べさせてから地図上の作業をさせる。遺跡や博物館等は確認しておく。

仏像の種類を身近な文化財から理解する



文化史を丁寧に扱う中で、仏像の種類をある程度判別できるようにしておきたい。最終的にFW先の「仏像名を当てる」という形態を取り入れ、これに従い学習プリントを作成した。学校周辺の文化財からプリントを作成することで、文化史に身近でかつ新鮮な感覚で取り組める。

T はい、如来様の特徵書いていくよ。気付いた特徴は？

S「頭髪がパンチ？」T螺髪って言うよ。

S「もう一個の頭が」T頭良すぎて飛び出た。肉髻。

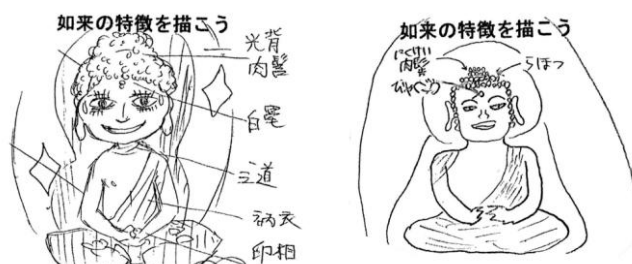
S「衣服は簡素」T悟りを開いたお姿が基本だから。

S「眉間に何か」T白い巻き毛の白毫、光明を放つんだ。

S「耳が大きい」Tみんなのワガママな願いを聞くため？

仏像の特徴をしっかりと理解しておくことが、のちの仏像鑑賞に大きく役立つ。仏像の特徴は丁寧に解説した。

「如来」様の特徴を付した生徒作品から（一例）



<生徒がコメントなどを付記したプリントの例>

イ 3・4時間目 フィールドワークの実施

ワークシートをもとにクラス単位で見学

生徒が記録したFW用ワークシートの例>



※クラス単位で数日に分けて実施。

※ワークシートは事前に御住職と打ち合わせをして作成。

※ワークシートを記入するためのクリップボードを全員に配付。

※実施後に回収したワークシートに指導者からコメントを付して返却。

※ワークシート及び感想・自己評価を評価に入れる。

学校の外に生徒を連れて出するため、万全の安全対策を施し危機管理体制を作っておかなければならない。管理職の事前相談はもとより、職員会議で提案して実施した。地歴・公民科3名と担任教諭等にも引率を依頼するなど各方面との連携協力に努めた。管理職の許可はもちろん、日々の生徒指導をはじめとした教員側の協力体制の延長線上に今回の取組があったことは言うまでもない。

ワークシートの作成やクリップボードの手配、授業交換など手間暇は掛かるが、それらを超越した教師側の教育的使命感や勢いのようなものが生徒に伝わるものである。学校の外にみんなで出て行くという期待感と、事前の学習が功を奏してか、生徒たちの意欲は高まっていた。

当日の動き **学校発** → 徒歩 → **医光寺** <仏像・文化財の見学> → 徒歩 → **学校着**
10:50 20分 11:10 見学・調査・自由散策 12:20 20分 12:40

※**医光寺**…不動明王像、阿弥陀如来像、薬師如来像、大日如来像など約20点の仏像彫刻を所蔵。NHK大河ドラマ「江〜姫たちの戦国」の主人公「崇源院像」が発見され、戦国大名の浅井長政はじめ浅井・三好家累代の位牌など、貴重な文化財が残る真言宗豊山派の寺院。

3・4限を利用して実施。行き・帰り道での生徒との会話も大切にしたい。



平成22年度11月実施 寺域の紅葉も見事であった。



平成23年度6月実施 生徒の体調管理や熱中症に配慮。⑪帰着後に人員等の把握・管理職への報告

～FW実施までのタイムテーブル～

- ①訪問先検討・資料及び情報収集・行程検討
- ②素案作成・教科会議提案・管理職への相談
- ③訪問先の医光寺御住職への挨拶・日程確認
- ④引率職員の調整・要項作成・職員会議提案
- ⑤ワークシート作成・御住職との打ち合わせ
- ⑥生徒への事前学習・FW上の注意事項徹底
- ⑦御住職へ電話確認・引率担当者打ち合わせ
- ⑧出発前集合・人員及び体調不良者等の把握
- ⑨水分や塩分の補給等・クリップボード配布
- ⑩諸注意後にFW実施（救急用品、氷持参）

⑪帰着後に人員等の把握・管理職への報告

ウ 5時間目 授業通信の発行・ワークシート整理・感想発表・自己評価

授業通信の発行

FW実施後はすぐに授業通信を発行する。写りたくない生徒には配慮しつつ、できるだけ多くの生徒の写真を載せた。

御住職にお礼の一言を書かせることにも心掛けさせた。キャリア教育の一環と言える。普段は開帳しない御堂を開けていただき、説法までをいただく。これまでは気にも留めなかった寺院の由来やお地蔵さんの話などを真剣に聞き、一所懸命にメモをとる生徒の姿があった。自由散策の時間では、協力してワークシートを完成させ、寺域のあらゆるものに興味・関心を示している。

会話がはずむ中で「癒される」との生徒の言葉に、御住職が「お寺というのは心の癒しの場です」と応じて下さったシーンもあった。江戸時代から残る山門、石畳の道、銀杏の大木…。「昔の人も疲れたらここで気持ちをリフレッシュしたのね」と生徒。御住職の「心の寺」の話が続く。実施後、ほとんどの生徒が「行ってよかった」「また行きたい」と答えている。FWが座学より好まれるのはわかるが、私にはそれだけではないような気がした。

目標であった仏像についての学習をはじめ、お寺の役割、空海や江などの人物のお話を聞き、大きな学習効果があったと思われる。

以下は生徒の自己評価結果である。

生徒自己評価	1 よく取り組めた	2 わりと取り組めた	3 あまり取り組めなかった
	78%	19%	3%

生徒の感想からも、地域の歴史や文化財に親しみ、興味・関心を持てたことが窺える。今後の学習へとつながる大きな一歩になった。※以下の感想以外にも多くの生徒が好意的な感想を寄せていた。

感想
① また行きたい所がたくさんあるので、お寺や神社に行きたいと思った。でも説明がまだ全然わからないので勉強して説明なしでも、解るようにしたい。お寺の気分になれたのですごくよかった。

感想
② 疲れたけど楽しかった。京都にはいなくてこんな寺があるから、市原を捨てた。いじやないなと思えた。「お寺」って、おまじないでよかった。この場所からたのびたい。楽しかったです。

感想
② 鍾乳とか、奈良とか、千葉とか、いろいろ。またやりたいです。

感想
④ 話を聞いているうちにとても楽しかったです。授業では教えない事もたくさん聞けた。本当にうれしかったです。たまにはこんな授業もいいと思いました。お寺や神社に勉強に行きたいです。

<授業通信の例 クラス単位でのFWを紹介>

日本史通信 3C号外版 3Cのみんなで、フィールドワークに出発だ！

一番最初校門前に集合したのは、岡本さん！永野さん！すばらしい！ま、まさかの2人がやる気満々です（笑）
田村先生・石井先生・柴田先生・石川先生、そして紅一点中村先生も現地で合流しました。めざすは1、8km先の匠光寺

カメラの前にはいつも石井さんの顔、高直、高直！

着いたあ〜。一番乗り！勉強するぞ〜！
なんかさ、紅葉が綺麗で、よかったよね！
でも、ちょっと歩く距離長かったかも…。

さあ、出発。ワクワクするよ！しっかり歩け〜！
みんな真面目に御住職さんの話を聞いて真剣にメモを取っていました。えっあの牧君が頑張ってる！

この仏像は、「阿彌陀如来坐像」でした。

「また行きたい」と柴田さん！
このあと、大野さん、審岸さんで鐘の唐揚げを共食い！（笑）

ひっそりとたたずむ山門、樹齢200年を超える銀杏の木、貴重な仏像や寺宝、なんたってあの多羅葉の木（たらの葉の木＝郵便局の木）にはビックリ。あの葉に書いた字は、何ヶ月も消えないって言うから優れモノ。卒業後は、近くの寺社仏閣を自分で調べて訪ねてみようね！

(3) 実践報告 2 「郷土史テーマ学習」 FW実施・報告書作成・発表 6時間扱い

生徒自らテーマを設定し、事前学習を行って、FWをもとに報告書を作成し、発表させるという実践である。まず班（グループ）を作り、以下の観点を強調して実施するよう指導した。

図書館やインターネットなどで調べ学習をするだけでなく、実際に現地に出掛けることを原則とする。テーマに関係する「※フィールドに身を置いて、自分たちの目・手・足など五感を通じて学び取ったり感じたりしたものをもとに報告をする」こと。

※小関勇次「高校地理と郷土史教育の連携について」（月刊『地理』644号、古今書院）を参考

クラス内でテーマが重複しすぎないように配慮するとともに、テーマを構成する諸要素も、古代～近世までの「身近な地域の伝統や文化」、「郷土史」を、特に「市原市と在住の地域」に限定した。

ア 1・2時間目 テーマ決定・事前学習

生徒によるフィールドワーク調査主題の設定

2人～6人の班構成とし、郷土の歴史や文化遺産等を題材とする。FWが可能かどうかの吟味をさせた上で、最終的なテーマの決定をさせる。コンピュータ室や図書室を利用してテーマ・行程表を作成する。休日や放課後を利用してFWを実施し、報告書が完成した班から発表を行った。



テーマの検討をする生徒

- ◆ 1・2時間目 ①班作り ②テーマの検討／決定 ③FWの行程表作成と提出
- ◆ 週休・休業日 ⑤土・日・長期休業日を使って、班（グループ）単位でFWを実施
- ◆ 3～6時間目 ⑥発表資料作り（2時間） ⑦発表（2時間）／自己評価

<各班が設定したテーマ一覧 4クラス中2クラスを抜粋>

班	A 組	人数
1	橘禅寺～身近な地域のお宝	4
2	市原の古墳時代～姉崎古墳巡り～	2
3	牛久「八坂祭」について	3
4	パワースポット『高滝神社』	3
5	高滝／日本一の木像地蔵菩薩	3
6	池和田城跡について	2
7	国分尼寺～女の人の寺って～	2
8	笠森観音の信仰について	2
9	地元大多喜城の歴史にふれる	2
10	医光寺の崇源院像について	3
11	菅原孝標女～更級日記の旅～	2

班	D 組	人数
1	頼朝の道～鎌倉街道を歩く～	4
2	縄文の市原～上高根貝塚の探検～	2
3	市原の山城～戦国時代を歩く～	3
4	発掘された上総国分尼寺跡	6
5	上総国分寺跡を訪ねて	4
6	本田忠勝の活躍～大多喜の歴史～	2
7	大多喜城の歴史	5
8	高滝神社の神事と巫女体験	4
9	市原市の古墳時代～神門古墳から～	3

全クラスで37班が組織され、テーマの設定、

FWの場所、行程などの計画書を配付した。

テーマに関する場所がわかるように現地で2枚以上の撮影を課した。撮影はデジカメや携帯電話を利用して班員も写るよう指示。これらの画像をパソコンで取り込み、生徒自らで編集する。

他クラスでは上記以外に「王賜銘鉄剣」「鶴峯八幡神社の神楽」「祇園原貝塚」「飯香岡八幡宮と頼朝」「日光寺」「諏訪神社」「大宮神社などの由来や祭礼」などを調べてFWを実施する班があった。

※テーマ決定に際し各班に配布した資料等

- 「いちはら文化財マップ」（市原市教育委員会）
- 「私たちの市原」（市原市教育委員会）

イ 3時間目 行程作成・FWの実施

(ア) 計画書の作成

右の計画書を提出させる。計画書には、①テーマ、②テーマ設定理由、③事前学習の内容、④いつ、どこへ、どのような手段で実施するか、⑤役割分担、⑥発表までの予定を具備させた。計画途上でいくつかの班に同行し、早めに報告書を作成させ、取り組む雰囲気づくりを後押しする。多く生徒とのコミュニケーションを図るようにも心掛けた。

日本史 「郷土史テーマ学習」班別計画書 (D) 組

テーマ 『頼朝の道 鎌倉街道を歩こう』

※なぜそのテーマにしたのか
私の家は市原の立野で、今回家のすぐ近くに鎌倉街道なるものがあることを知り、ぜひ知りたいと思ったから。みんなで歩きたいと思ったから。

班員名 (グループ) 2名以上最大6名まで 班長に◎

◎貞 菊・・・	藤 原・・・	佐久間・・・
松 本・・・		

1. 事前学習 (どんな事前学習をするか)
鎌倉街道とは何か 鎌倉街道を地図上で確認
御所見塚とは何か

2. フィールドワークはどのようにして行くか
○ 8月25日に行く予定。
○ 参加メンバー (全員)
○ どこへ調査に行くか
図書館／インターネット
鎌倉街道 光風台小学校・立野～袖ヶ浦郷土博物館までのルート
○ 交通手段
地元なので家の人の車で大多喜城へ送ってもらう。それ以外は徒歩
○ 記録係 (携帯可、できればデジカメ等で撮影を)
氏名 藤 原

3. 発表までの予定。
テーマ決定 7月中 現地フィールドワーク 8月夏休み中 報告書作成 9月15日まで 発表 9月下旬

(イ) 授業通信の発行で雰囲気づくり

前回の実践同様、授業通信を作成してFWへの意識の昂揚を図る。こちら側の情熱と勢いで生徒をフィールドへと向かわせる雰囲気を醸成していく。

授業通信は、①学年すべての班テーマを掲載したもの、②フィールドワーク上の諸注意、③フィールドワークの先行実践(右)途中経過を掲載した。報告書が完成した班から、廊下に貼りだして他学年や先生方も見るようにした。

「鎌倉街道」「橘禅寺」「佐是城趾」「笠森観音」「国分尼寺跡」「高滝神社」へは私も同行した。学校では会話することの少ない生徒とも、半日も一緒にいると親しくなれる。何より、少人数で一緒に行動や体験を共有することで、お互いの距離が縮まる。生徒の意外な一面を知ることもある。「先生と一緒に外に出て郷土史を学ぶなんて」と、笑って話す生徒も多い。しかし、明らかに1つのことに前向きになって取り組む、新たな生徒の姿がある。

ウ 4～6 時間目 報告書の作成/発表

報告書は各班2枚をパソコンで作成する。早朝や放課後のコンピュータ室の利用を促して実施した。報告書が完成した班から発表をする。

テーマ「頼朝の道 鎌倉街道を歩こう」

日本史フィールドワーク 郷土史テーマ学習

テーマ『 頼朝の道 鎌倉街道を歩こう 』

D組1班 班員 ◎貞功 慧亮 松本 葉 佐久間唯華 篠原 弘樹

私たちの班の行程
光風台→立野→鎌倉街道→立野→天羽田→下新田→ミツ作→郷土博物館見学 お迎え車→学校

「鎌倉街道」について
私たちの班は、「歴史の道百選」にも選ばれた千葉県内唯一の「鎌倉街道」について興味を持ち、「鎌倉時代にタイムスリップして、頼朝の歩いた道を歩こう!」と、このテーマに決めました。鎌倉街道は、関東及び周辺諸国の武士団が、鎌倉へと馳せ参じた道であり、物資運搬のために作られた道でもあります。市や宿場が作られ、全国にその名を残しています。

古くからの多くの道は歴史の中に埋もれてしまっていますが、房総各地に鎌倉街道に由来する地名や史跡が多数残されています。鎌倉街道は市原市立野から袖ヶ浦市野田、木更津市の渡海面を通り、木更津市中島田を経て富津に抜ける道筋が、鎌倉街道といわれます。



【上は頼朝が兵に機を飛ばした御所寛塚にて】
【左は鎌倉街道『御所寛塚』のてっぺんから】
鎌倉幕府を開いた源頼朝が、平家追討の兵を挙げ、石橋山の戦いに敗れて、海路安房に逃れました。再興を図って千葉の豪族、千葉常胤や平広常などを見方しながら鎌倉に向かっていきます。この時に、頼朝が下総の常胤のもとに向かう時、行く手を見送った。あるいは兵を見送ったと伝説が残っています。



歩く途中には「鎌倉街道橋」やたぐさんの道標や石碑など、鎌倉街道を彷彿させるものがたくさんありました。



南たから道と書かれた道標でのスナップ。
鎌倉街道沿いに残る道しるべだそうです。

<授業通信の例 FWの先行実践を紹介>

日本史通信 郷土史テーマ学習、さあ、フィールドワークに出発だ!

次から次へ現地調査報告が…。これからの人はしっかり計画を立てて行きましょう。現地写真は、あなた自身も写真報告書に添付します。交通ルールを守って、安全第一で!



◆笠森観音にて (A組)
◆高滝神社にて (D組)
◆佐是城趾にて (B組)
◆鎌倉街道 御所寛塚にて (D組)
◆地元の古刹 橘禅寺にて (A組)
◆天平の面影残る『上総国分尼寺』にて (A組)
◆上高根貝塚にて (D組)

みなさん、くれぐれも安全第一! あぶないことは絶対しない! お家の人にも行き先を告げていこう!
フィールドワークが終わったら、報告を下さね。
貝だけでなく土器の破片があちこちに! 黒曜石や矢じりは拾えず、ちょっと残念…。

生徒が作成した報告書 各班A 4で2枚

【館山自動車道の上にある鎌倉街道橋で】

フィールドワークの感想

松本
・寒かったけど、みんなで行けてとても楽しかった。御所寛塚では、頼朝さんの気分になって、周辺のアイコンを兵士に見立てて、気合を入れました。「打倒! 平家!」

佐久間
・畑のなかの一本道、ほんとに田舎の一本道、ここが「いざ、鎌倉」の戦いに行く古道だなんて信じられませんでした。所々の標道や石碑が面白く、日露戦争に馬を差出した馬頭観音の石碑も魅力的でした。



篠原
・最初は乗り気ではなかったけれど、行ってみて、楽しかった。牛はいるし、牛の糞はあるし、わけのわからない石碑はあるし、なんか古道って言われれば歴史の古道だし、畑に行く道と言われれば畑の中にあるのただの道。でも、少しだけ得た気分になった。

貞功
・実際にフィールドへ出て、自分の目で見たら、そこを歩いたり、景色や風を感じたりしながら歩くのは、素晴らしい。自分は理系の大学に進学するが、日本の歴史は好きだ。先日、たけしの教科書に載らない日本の歴史では、空海と最澄がやっていた面白かった。きつとしっかり勉強すれば、いろんなことが面白いと思う。

さて、テーマとは異なりますが、鎌倉街道を歩いていると、袖ヶ浦市の郷土博物館にたどり着きました。せっかくなので、歴史の勉強に寄ってみました。



博物館で1時間、歴史三昧の私たちでした。
一堅穴住居前で 家の中は意外と暖かいよ。

各班で作成した報告書をもとに発表する生徒たちの様子



印象に残った発表

- ・TVレポーター風な発表
- ・先生のもの真似をして発表
- ・身振り手振りなどで表現

発表に際して

- ・報告書を印刷して全生徒に配付する
- ・班員全員で発表する

発表を聞く生徒の様子



発表後に書いた生徒の感想

フィールドワークは、やっぱり校外で勉強だったためか、楽しかった。
他の班の発表もおもしろかった。

初めてフィールドワークのをしたけど、地元なのに知らない事が
いっぱいあってびっくりした！でも高校最後に市庁のいろんな事を知れてよかった！

報告書の作成には2時間分の授業を充てる。その際、画像の取り込み方法なども解説する。全班（4クラス計37班）の報告書が完成し、クラス単位で完成した班から順次発表を行った。発表後に「自己評価表」を配付し、生徒はおおむね真剣にこれまでの取組を振り返っていた。

(4) 実践報告3「わがまち歴史の旅マップ」の作成 4(9) 時間扱い

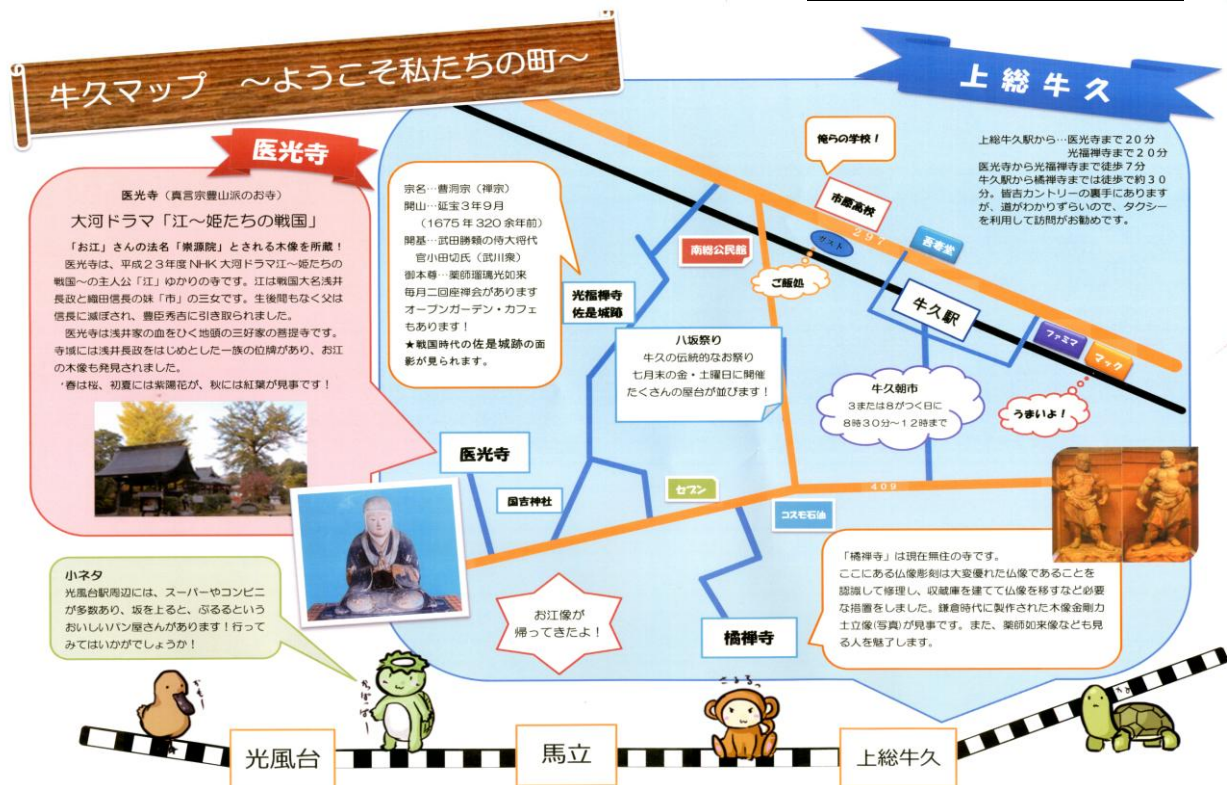
郷土史学習の最後として「わがまち歴史の旅マップ」（以下旅マップと表記する）を作成し、ふるさとの観光振興に一役買おうという実践である。彼ら自身のFWデータを収集・共有化し、旅マップに掲載する文化遺産や史跡等の検討を行い、教科「情報」と連携して地図作成を行う。

教科「情報」と日本史の連携を図るため、担当者との役割分担や地図作成に充てる時間数を検討した。教科「情報」では地図作製の具体的なPC技術、入力作業時間を5時間分とし、班編成及び掲載地図の範囲と史跡調査や写真・資料データに関しては、日本史の時間に準備を行うことにした。また、発表責任者3名を決め、文化祭準備と並行して「わがまち歴史の旅マップ」と題した発表を行う。併せて平成22・23年度分の「郷土史テーマ学習」報告書を展示した。

旅マップは文化祭での展示発表はもとより、小湊鉄道上総牛久駅をはじめとした沿線の駅で活用してもらい、観光客に利用してもらおうという試みである。「地域の観光振興や活性化に一役買う」という試みが、生徒たちのやる気を後押しする。利用する人の気持ちになって考えることや、地域のさまざまな人や施設との連携を意識する気持ちも大切であることを生徒に訴えかけた。

ア 日本史・教科「情報」における授業時間配分と内容

日本史（4時間を配当）	教科「情報」（5時間を配当）
1 時間目 概要説明・班編成と役割分担・情報収集 班編成（3～6名）を行って役割分担を明確化。掲載する範囲や史跡や写真などを検討する。 2～3 時間目 データの共有化と旅マップの作成 図書館で地図の構想を話し合う。掲載・紹介する史跡等の調べ学習。これまでのFWデータを一元化し、写真等のデータは共有して使用する。 4 時間目 入力と印刷確認 進捗状況を確認しながら適切なアドバイスを行い加筆・修正を行う。文化祭終了後、展示発表を見て自己評価及びアンケートを実施。	1 時間目 地図作成のPC技術説明 班別ファイルの作成、諸注意と作成方法、用紙設定などの確認と、作成練習を行う。 2～5 時間目 旅マップの作成 PCを利用して具体的な地図作成を行う。教科「情報」4時間分を地図作成に充てる。担当教員とT・T職員2名、日本史担当の合計4名で生徒の地図作成を後押しする。 完成した班から印刷を行う。著作権等を確認し、文化祭発表展示用にカラー印刷する。地図は教科「情報」の課題作品として評価。



旅マップ作成にあたっては、小湊鉄道本社と事前に連絡を取り、関連ホームページや鉄道・観光情報などの転載を快く許可していただいた。それ以外に掲載する絵や写真、解説などに関しては、インターネット上のHPや本から無断で引用・転載することのないよう周知させ、引用する場合には出典を記載したり、許可をもらうことを徹底させる。その場合にもできるだけ生徒自身で関係諸機関と連絡を取らせるようにした。教科「情報」の時間に著作権に関する指導を行った。

旅マップを作成する取組を通じて、ただ作るだけではなく見る人や相手の気持ちになったり、地域の観光振興について考えるきっかけになった。以下のアンケートからも見られるように、地域に残る伝統や文化・史跡等を知ること、郷土愛をはぐくみ、仲間と協力してFWをしたり地図を作成したりすることでコミュニケーション力を培っていったと考えられる。

旅マップは教科「情報」でも課題作品として評価する。日本史では生徒による自己評価を参考に、（１．工夫されている点は何か ２．みんなで協力して作成できたか ３．見る人の立場になって作られているか ４．郷土の史跡がしっかりと紹介されているか）などの視点から評価した。

生徒の自己評価の感想より一部抜粋

地図を作製するのはとても大変でしたが、歴史についてや、地元のことについて、今まで以上に知ることができ、とても興味を持つことができました。

私達が何気に住んでいる市原。そんな市原にも様々な文化・歴史があることを知った。過去から（平安時代）歴史を調べることができた。小湊にも深い歴史があり、私達の知らない情報を得ることが出来ました。

地図をつくみたのしかったです。場所に行けたのしかったです。写真を撮るのしかったです。



小湊鉄道上総牛久駅にて
（旅マップを設置した記念に撮影）

旅マップは駅舎内広報スペースに設置。駅長さんが温かく迎えてくれた。

ここで、これまでの実践手順とその反省点を整理する。

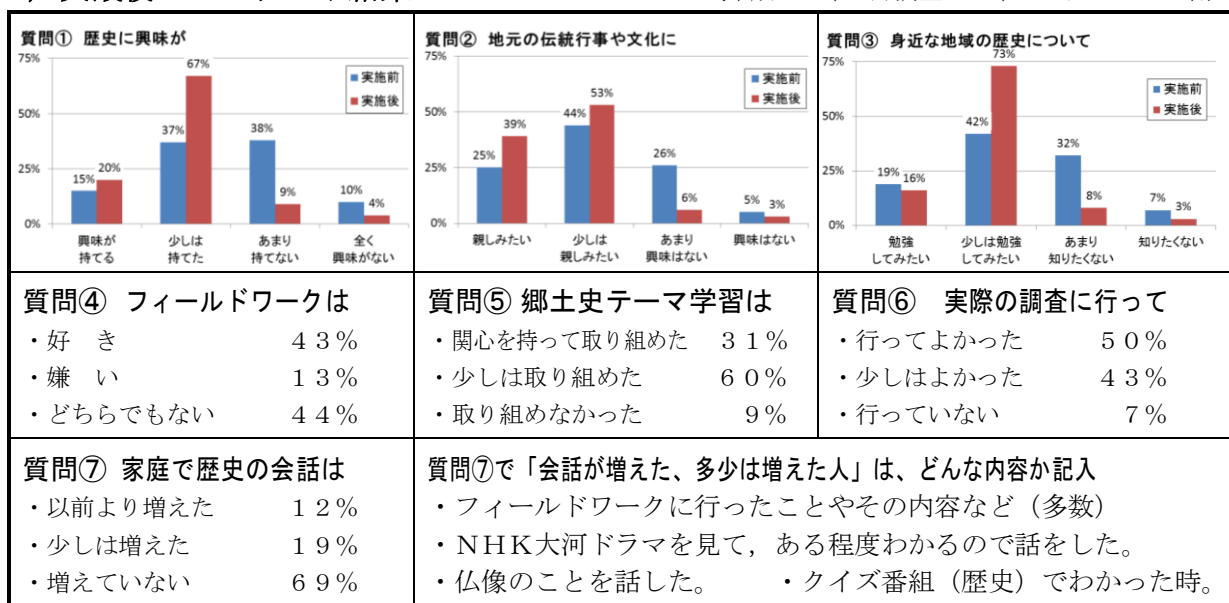
- | | |
|------|---|
| 第1段階 | 身近な地域の歴史や文化財を積極的に取り入れた授業実践や教材作り |
| 第2段階 | 身近な地域におけるFWの実践（教師主導）／事前・事後指導 |
| 第3段階 | 郷土史テーマ学習とFWの実践（生徒主体）／報告書作成／発表／評価
わがまち歴史の旅マップの作成（生徒主体）／文化祭展示発表／地域での活用 |

第1～2段階で、郷土の歴史や文化財に関心が高まったと認められる。課題としては、「欠席生徒の再訪問や評価をどうするのか」がある。第3段階においては、3年生の部活動引退後ということと比較的スムーズに進められた。経済的な事情や、就職に向けての準備のために時間が取れない生徒については、発表や報告書作成、地図作成などを役割として担当した。

5 実践後の生徒の変容と今後の課題

(1) 実践後のアンケート結果

(平成23年1月調査 3年全クラス126名)



授業を通しての感想

日本史の授業はつまなかつたけど、フィールドワークみたいに自分たちの地域の歴史を勉強するのはけっこう興味があると思って、来年の3年生もぜひやってほしいと思う。

私達が行ったのは中高根にある鎌倉街道で、その道はたしかにもきおもしろいんじゃないかなって思うくらい、なんにもないただの道でした。幅も車7台が通れるくらいで、暗くてちょっとこわかったです。上総道といわれており、道の交差点に「鎌倉街道」と書かれた木が立っていて、「いざ鎌倉!!」ってみんな昔の人が通ったのだと思うとおもしろい。

宝森観音に行くと、仏像をたくさん見た。子供関係の仏像が多かった。なんであんな高い建物の中に、仏像を置いたのか疑問に思った。高いからすごく怖かった。将来、どんなと行きたいかな（笑）楽しかったー。

(2) アンケート結果から

家庭での会話は増えていないとの回答が69%で、期待していたよりもはるかに低い数字であった。この結果を受けてFWなどを話題にしなかったのかと口頭で聞いてみたところ、男子生徒のほとんどが話していないという。女子生徒は、特に会話が增えたわけではないが、FWに行ったこと等は話しているとの回答が多数であった。しかし、多くの生徒が歴史に興味を持ち始め、身近な地域に親しみを感じている。生徒の感想からは、「FWに行ったらよかった」という好意的な感想が多数寄せられており、これまでの活動を真摯に振り返っていてもいる。過去の調査と比べても歴史への興味・関心が向上したと考えられ、生徒の感想からもこれらの取組は効果があったと考えられる。

(3) 実践の検証と今後の課題

フィールドワーク（FW）という、生徒自身が実際の現地で見たり聞いたりした五感を通じた体験をすることで、授業に取り組む姿勢が前向きになった。実践後のアンケート②では、地元の伝統行事や文化に親しみたいという回答が実施前より20ポイント以上増えており、アンケート③からも身近な地域の歴史について勉強したいという回答は30ポイント近く増えている。これらの結果から、地域社会の一員としての自覚が促され、少なからず郷土愛がはぐくまれたと考えられる。

身近な地域の歴史を知り、実際に見て歩いて紹介し、仲間との交流を深めることで、自信と大きな充足感を得ている。郷土史テーマ学習では、FWを振り返りながら楽しそうに発表する姿が印象的であった。旅マップの作成では、「利用しやすいものを作って地元の観光を楽しんでもらう」という雰囲気が生まれ、地域を知ることはもちろん、仲間と協力してよりよい旅マップを作ろうという頼もしい気持ちが見られた。教科「情報」と連携することで十分な作成時間を確保でき、地図を作成するPCの技術も得るという一石二鳥の展開であった。文化祭での展示発表はもとより、小湊鉄道でお客さんに利用してもらうこともでき、多くの生徒が地域の一員として郷土愛をはぐくんだと考えられる。そして、私には以下の3つの発見があった。

まず1つ目は、高校生が地域に出て活動することで、関係者にも相乗効果をもたらすということである。生徒自身が学ぶだけでなく、我々教員、文化財を保護している人たちや行政関係者が、文化財の持つ価値や保護することの重要性を高校生へ伝える機会となった。図書館や博物館がどんなに立派に整備されていても、肝心なのはそれらを利用する生徒を育てることである。それは学校の役割であることを痛感した。

2つ目は、生徒のキャリア教育の視点である。生徒たちは地域に出ることで「外から見られている自分」に気づき、言葉遣いや正しい制服の着こなし、挨拶することの大切さ等を学んでいた。地域と自分たちとの関わりを感じるようになってきた。これらは授業を通した生徒指導であり、あればダメ、これはダメだけでは、お互いのコミュニケーションも成立しない。

3つ目は、地域との連携と開かれた学校づくりの大切さである。本校は伝統校であり、多くの卒業生が地域で活躍している。地域の人材や協力を得ることも容易である。これらの温かい環境が生徒の学習意欲だけでなく、指導者のやる気までも後押ししてくれる。

今後の課題としては、一単位時間の授業という垣根を越え、総合的な学習の時間や教科「情報」などの時間を有効に使ってFWを推進していくことが望まれる。学校の事情やさまざまな制約を超え、教師の情熱や信念を傾けて、生徒を地域のフィールドに送り出す努力を続けねばならない。

6 おわりに

教師にも発見と出会いと感動が重要である。生徒と一緒にFWをして地域の歴史とふれ合うという発想、自分自身が郷土の歴史と向き合うことができたのも、教科研究員という機会を与えていただいたからだ。数々の調査報告や研究員の思いに触れ、自分自身が新鮮な気持ちで教材の研究に取り組めたことが、一番大きな収穫であった気がする。生徒も同じである。

教室での座学が苦手な生徒もFWが新たな可能性を開いてくれる。生徒から「行きましょう」という声が聞こえてくる。会話を通したコミュニケーションはもちろん、生徒たちと一緒に行動や体験を共有することで一体感が生まれ、授業が変わっていく。生徒は明らかに意欲的に学習活動に取り組むようになった。そんな2年間を肌で感じながらこの報告書をまとめてきた。今回の取組をいかして、今後も多くの先生方と協力して、FWとそれに伴う様々な実践を広げていきたい。

最後に、これまで御指導を頂いた指導課並びに教科指導員の先生方に厚く御礼を申し上げます。また、引率などを快く協力いただいた市原高等学校地歴・公民科の先生方をはじめ、熱心に取り組んでくれた生徒諸君に心から感謝します。